

# 議会だより

## 第488回西ノ島町議会 3月定例会一般質問（要約）



一 議員  
谷 一 澤 議

質問 西ノ島町の総合戦略に掲げる施策の推進体制について

第2期総合戦略の推進体制は、目標の達成に向け、各分野に関連する町民、企業、行政等で協働し推進するとしているが、現在、どのような体制で推進しているのか、方向性を示すに留まっている施策の具体的な取り組み内容はどの様になっているのか伺う。また、この総合戦略は地域活性化を図り、人口減少に立ち向かう重要な構想である為、行政と議会が連携し、危機感を持って取り組むべきと思うが、町長の考えを伺う。

回答 町長

総合戦略において、重要業績評価指標・KPIを重要視していることは議員もよく承知のことと思う。

KPIは、総合戦略の施策状況を客観

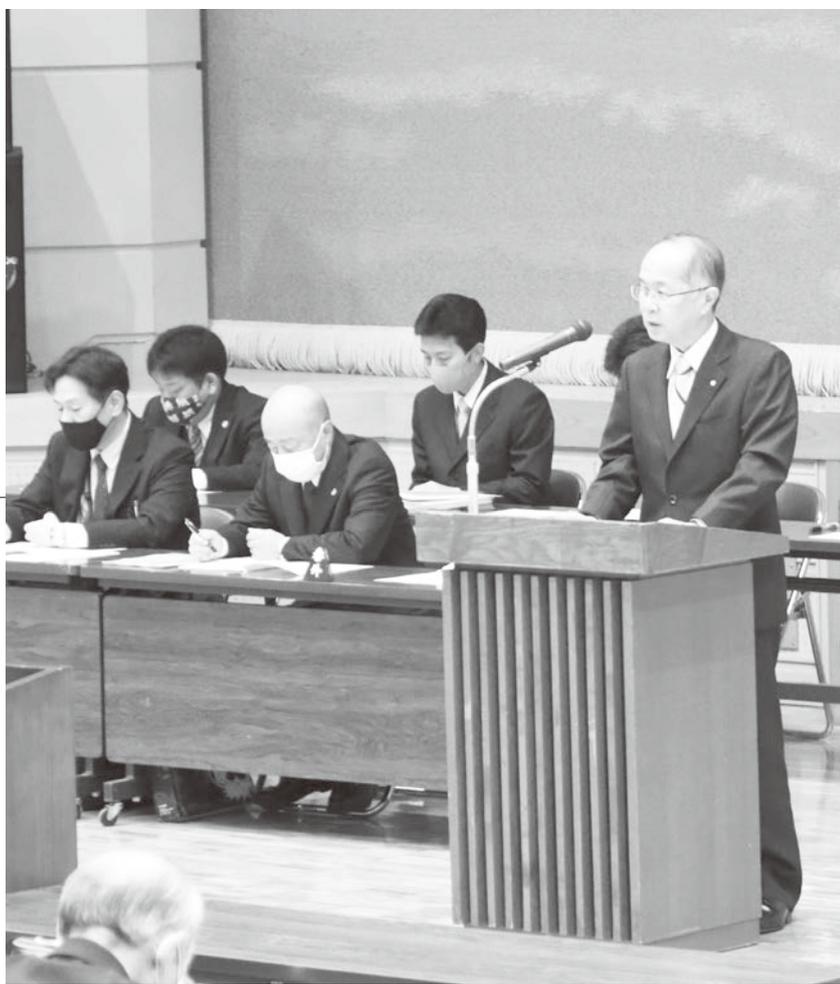
的に検証可能にする指標で、この指標に對して、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略の改訂、具体的な施策の見直しをするというPDCAサイクルを回していくことで、総合戦略の実現を推進していくこととしている。Pが表す計画は総合戦略そのもので、Dが表す実施は「中期財政計画や予算」、Cが表す検証にあたっては、企業・団体・議員の方も参加する「西ノ島町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を置き、会議で頂いた意見を基に、次の施策につなげるアクションへと結びつける形で推進を図っている。第2期総合戦略からは、策定に携わった住民の方4名にも検証に関わって頂く方向で準備を進めており、推進会議での活発な議論を期待している。

次に、各施策については、総合戦略で目指す姿を『人の集う島へ』とし、この姿の実現に向け『新しい人の流れをつくる（移住・定住）』、『資源を生かし、安定した雇用を創出する（産業・雇用）』、『結婚・出産・子育ての希望を叶える（結婚・

子育て）』の3つの目標を掲げ、それぞれの目標達成に必要な施策を70項目記載している。方向性を示すに留まる施策の具体化にあたっては、推進会議の議論等を参考にしながら、中期財政計画等で概要を示し、各年度の予算をもって具体化をしていく。

第2期総合戦略は策定から1年が経過したところであるが、この1年は、コロナ禍の影響から『新しい人の流れをつくる』という面においては、強い逆風となった。

ただ、どのような状況であれ、持続可能な地域社会の維持のために、将来の人口減少抑止と地域の活性化を目指す総合戦略への取り組みは、優先度が高い事項であり、私も危機感を持って臨んでいる。行政と議会の連携についても、総合戦略への取り組みに関わらず、地方自治を担う両輪として、互いに切磋琢磨し協力し合い、共に、西ノ島町の明るい未来に向けた道を切り開いていきたいと考えており、議会からも積極的な意見を頂きたい。





小島 正春 議員

質問 新型コロナウイルス対策について

現在、ワクチンの供給状況がはつきりしない中で、実施時期等を確定するのは難しいと思うが、町民が関心のあるワクチン接種に対する本町の取り組み状況と今後の予定について2点ほど伺う。

1点目は、ワクチン接種場所の選定と隠岐島前病院との連携による医療スタッフの確保状況について、2点目は、現時点での本町へのワクチンの供給状況とワクチン接種の実施予定は、どの様になっているのか町長に伺う。

回答 町長

ワクチン接種場所の選定と医療スタッフについて、本町では、集団接種をメインに考えており、接種場所については「ノアホール」を予定している。接種については、隠岐島前病院と協議を重ねており、医師・看護師の確保については、隠岐島前病院のスタッフを中心に考えている。医療従事者以外のスタッフについては、役職員を動員し、感染対策を徹底したうえ

で、スムーズなワクチン接種が行えるよう、体制を構築していく。

2点目のワクチンの供給状況と接種の実施予定については、現時点での状況ではあるが、このほど、国から高齢者分の配分方針が示され、島根県より4月12日の週に1箱480名分を配分すると言う連絡が入っている。今回、配分されるワクチンは、1人2回の接種を行う必要があり、対象者となる65歳以上の方は、350名おられる為、量的には対象者の三分の二程度であることから、優先度を考慮しながら接種して行きたいと考えている。

具体的には、まず1回目の接種を、みゆき荘、和光苑の入所者に対し4月19日と26日の実施で予定をしている。4月24日には、80歳以上の高齢者を対象に行い、それぞれ3週間後に2回目の接種を行う予定である。また、3月下旬には、接種券と予約受付の案内を送付し、4月上旬に予約を受け付ける予定としているが、これ以降は、国の配分計画がまったく示されていない為、町としても計画ができない状況にある。

ワクチンの供給については、予定が刻々と変わる為、流動的であるが、今後も国の動向を見ながら、円滑にワクチン接種が実施できるよう取り組んでいく。新型コロナウイルス感染症の発症と重

症化に予防効果が期待されるワクチンについては、できる限り多くの方々に接種して頂きたく、町民の皆様のご協力をお願いしたい。



柴田 輝 議員

質問 地域応援隊の活用について

地域福祉計画の『目標2 みんなで支え合うまちづくり』、『目標3 安心して快適に暮らせるまちづくり』の達成には、地域応援隊の利用が必要不可欠であるが、年々利用者が減少している。

その理由として、知名度、認知度が低い事に加え、利用者の要望に出来る為の協力会員が少ないことが挙げられる。知名度、認知度の向上を図り、協力会員及び利用者を増やす方策について、町長の考えを伺う。

回答 町長

地域応援隊については、西ノ島町社会福祉協議会が設置している、西ノ島町ボランティアセンターの事業の1つであり、このボランティアセンターには、町も運

営委員会の一員として運営に携わっている。地域応援隊事業は、町民同士の助け合いによるボランティア事業であり、平成21年度から開始されたが、利用する側のニーズを満たす便利屋等のサービス業が増えたことなども、利用実績が少なくなつた要因だと思われる。また、高齢の方も今は仕事を持っている方が多く、協力会員も仕事の合間で協力することになる為、日程が合わないことも多々あると伺っている。

議員から事例のあったニーズの中には、社会福祉協議会には相談のないものもあるので、今後どういったニーズがあるのか、それに対して協力できる方はいらるか、有償ボランティアという形態が妥当かなど、今ある制度を見直す時期に来ているのではないかと思っている。今後、町民のニーズを把握するためアンケート調査等を行い、地域応援隊を含め、みんなで支え合う生活支援のあり方について、社会福祉協議会と一緒に検討していく。また、3月に開催されるボランティアセンターの運営委員会の中で、こう言った話も取り上げ、我々も協力したいと思っている。

そして新たな支え合いの仕組みが固まれば、町民の皆様にも協力依頼や利用を呼び掛けたいと思っているので、その際には協力をよろしく願いたい。